

表1(1)新種等の確認状況と対応のまとめ

種名		希少性の評価	分布	対応策検討の前提	対応策
海藻類	ウミヒルモ	レッドデータブック(環境省2000)の準絶滅危惧	埋立予定地の外側を主要な生育地として広く分布。埋立予定地内の生育確認面積比率は調査範囲全体の0.1~2.8%であった。また、ホソウミヒルモ及びヒメウミヒルモは金武湾にも分布域が確認されている。	①主要な生育地は埋立予定地から離れた海域にあること、②埋立によって消失する割合は小さいこと、③アセス時の工事中SSシミュレーション結果より主要生育地の環境変化は非常に小さいこと及びアセス時の流況変化予測より埋立地の存在による流況の変化も非常に小さいことを踏まえて、対応策の検討を行う必要がある。	①生育環境に対する工事中の水質汚濁監視 分布が集中する埋立予定地南側の海域への工事中の水質汚濁の影響については、既存の水質(海域)監視調査によって生育環境に及ぼす影響監視を行うものとする。水質監視調査の頻度は通常1回/月、浚渫工事の期間は1回/週 ②生育状況の監視 海藻草類に関する監視調査の一環として2回/年実施する藻場の分布調査とあわせて、今回の調査範囲よりも深場における分布も考慮しながら、必要によって調査範囲を拡大し、主要な分布域においての生息を確認する。 併せて、生育環境の状況変化を監視するため、主要な分布域内に10地点程度の定点を設けて底質の粒度組成を分析する。 ③改善策の実施 ①~②の監視により工事による影響が確認された場合には、工事の一時中断等の改善策を講じる。 ④事業区域外の主要分布域の保全計画の作成 関係機関と調整し、事業区域外の主要分布域の保全計画を作成する。
	ウミヒルモ sp.	レッドデータブック等未記載種			
	ヒメウミヒルモ	レッドデータブック(環境省2000)の絶滅危惧II類			
	ホソウミヒルモ(仮称)	レッドデータブック等未記載種であるが、環境省より貴重種として扱うべきとの意見あり			
海藻類	リュウキュウズタ(新称)	レッドデータブック等未記載種(糸満、中城湾、金武湾、大浦湾にて確認されている学会報告あり)	確認された生育量としては非常に少ないが、ヒメウミヒルモと分布傾向が類似している。		
甲殻類	オキナワヤワラガニ	レッドデータ沖縄(沖縄県1996)の希少種(安波川河口、大浦湾に生息; 専門家私信)	分布域は、埋立予定地の外側(陸域と埋立予定地との間)にあり、特に当事業において施工した仮設橋梁の北側(比屋根湿地の海岸側)に多く生息し、泡瀬通信施設方向に向かうに従い生息個体数は減少する傾向がみられた。また、干潟域の中でも干出時に陸域からの流入水、または干出時においても多少の潮だまりがある転石帯に生息が認められた。	①生息地は埋立地から隔たった干潟域の高潮帯付近であること、②アセス時のSSシミュレーション結果から環境変化は及ばないこと、アセス時の流況変化予測より埋立地の存在による流況の変化も限定的であることを踏まえて、対応策の検討を行う必要がある。	①生息状況の監視 干潟生物の監視項目として、新たに干潟生物(甲殻類)を設定し、代表的な2地点において2回/年に生息状況の調査を実施する。 ②生息環境の監視 比屋根湿地の監視調査ならびに干潟生物の監視調査として現在実施中(2回/年)の内容に加えて、今回確認されたオキナワヤワラガニの生息域を代表する上記の2地点において、底質及び間隙水質の監視調査を追加して行うものとする。 ③改善策の実施 ①~②の監視により工事による影響が確認された場合には、工事の一時中断等の改善策を講じる。

表1(2)新種等の確認状況と対応のまとめ

	種名	希少性の評価	分布	対応策検討の前提	対応策
貝類	ニライカナイゴウナ(新称)	レッドデータブック等未記載種	生息場所は、埋立計画地の南から南東域で砂州の南西から南東、西防波堤南側に位置することが確認された。また、津堅島の西側に位置する海草藻場の付近でも生息が確認され、生息環境は低潮帯から水深5m前後の海草藻場の周縁部やパッチ状にウミヒルモ等の小型海草が生育する比較的きれいな細砂域であり、寄生主となるソメワケグリ等の二枚貝類の分布する範囲より狭く、生息条件が限られていることが伺われた。	①主要な生息地は埋立予定地の外側にあること、②泡瀬地区から10km程離れた津堅島でも確認されたこと、③アセス時のSSシミュレーション結果から主要な生息地の環境変化は小さいこと、アセス時の流況変化予測より埋立地の存在による流況の変化は限定的であることを踏まえて、対応策の検討を行う必要がある。	①生育環境に対する工事中の水質汚濁監視 埋立工事中の水質汚濁の影響については、既存の水質(海域)監視調査によって毎月影響監視を行う。水質監視調査の頻度は通常1回/月、浚渫工事の期間は1回/週 ②生息状況の監視 主要な生息域における生息調査を継続的に年2回程度行っていくこととする。 併せて、底質粒度組成等の追跡調査を継続的に年2回程度行っていくこととする。 ③改善策の実施 ①～②の監視により工事による影響が確認された場合には、工事の一時中断等の改善策を講じる。 ④事業区域外の主要分布域の保全計画の作成 関係機関と調整し、事業区域外の主要分布域の保全計画を作成する。
	オボロツキ(新称)	未確認	発見者の名和氏所蔵の標本(1例の死一般)との照合はできていないが、同氏がオボロツキと称している <i>Monitilora simplex</i> (オーストラリアに分布)に該当する種の確認はされなかった。 なお、本種に類似するツキガイ科と思われる二枚貝については、ツキガイ科のカブラツキガイとウメノハナガイ系の複数種、フタバシラガイ科の1種が海草藻場内の砂地や周縁部の砂地で確認された。	事業者として確認していない。	事業者として未確認であり、特段の対応を行わない。 今後さらに調査を実施予定であり、事業者において確認された場合には、対応を検討することとする。
	スイショウガイ	普通種(水産対象種)	生息が確認されたのは、埋立計画地及び泊地計画地内であり、埋立計画地の周辺や沖側では確認されなかった。生息環境は沖側から干潟域に湾入した水深5m前後の場所で海底は砂や砂泥となっている。	①普通種(水産対象種)であること、 ②現在確認している生息域は事業予定地内にあることを踏まえて、対応策の検討を行う必要がある。	今後さらに調査を実施予定であるが、普通種(水産対象種)であり、特段の対応を行わない。
哺乳類	ジュゴン	天然記念物(国)	未確認	事業者として確認していない。	事業者として未確認であり、特段の対応を行わない。 事業者において確認された場合には、対応を検討することとする。